

スクールワイド PBS 行動支援計画表(11月：立腰をしよう)

ステップ 1：学校全体で増やしたい行動(標的行動)を決める。		
立腰をしよう		
ステップ 2：児童生徒に伝える「標的行動を行う理由」を考える。		
○ 学習を続けても疲れを感じにくく、集中力が高まる姿勢を身に付けるため。		
ステップ 3：標的行動の具体例を考える。		
	良い例	悪い例
	○ 下腹に力を入れて、腰骨を立て、肩や胸に力を入れず、あごを引く。	○ 背中が丸まっていて頭部が前に突き出している(猫背)。
ステップ 4：学校全体で標的行動を増やすためのきっかけ、行動、結果に対する具体的な支援を計画する。		
きっかけ (わかりやすい状況を作る)	行動 (できるように確認・練習する)	結果 (望ましい結果を随伴させる)
<p>○ 先生方 →授業の始めの号令時に、正しい立腰のポスターを示す。</p> <p>○ 日直 →授業始めに号令をかける。</p>	<p>○ 児童 →11月4日の業間の時間を使い正しい立腰の仕方や背筋を伸ばすことのよさを伝える。 →立腰の大切さを実感させるために、「腰骨の詩」を声に出しながら、正しい立腰を体験する。</p> <p>○ 先生方 →立腰の効果の説明や正しい立腰のポスターを示す。</p> <p>【立腰方法】 ペタ 足のうらはゆかに。 ピン セすじをのばす。 グー つくえとおなか、いす、せなかのあいだは、こぶし1こ分。</p> <p>【立腰の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気がおきる ・集中力がつく ・内臓の働きがよくなり、健康的になるなど 	<p>○ 先生方 →児童の様子を観察し、立腰する様子が確認された際には、「すぐに」「具体的に」認め、ほめる。 →号令後に限らず、立腰している児童には、日頃から認め、ほめる。</p>
ステップ 5：学校全体で児童生徒の標的行動の変容を評価するための記録方法を計画する。		
○ 学級担任・専科の先生方それぞれに記録用紙を配り、評価を実施してもらう。		
ステップ 6：全児童生徒や全教職員に支援結果をフィードバックする方法を計画する。		
○ 職員には、キャンペーンの結果の記録用紙を配付する。		
○ 児童には、キャンペーンの結果を放送や掲示物を使って、知らせる。		